



森ボラ 通信

第72号 2008年5月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■ トピックス

◆ 活動報告 I : 澄川環境林できのこ植菌開始

4月29日(火)、GWの谷間の休みにも関わらずキノコの植菌の魅力なのか、春の山菜摘みに引き寄せられたのか25名が集まり澄川の森は賑わいました。

時には休日の開催が普段参加出来ない会員の方たちにとって良い機会であったと感じた次第です。作業分担はキノコ植菌組、幌南の森の看板作成組、苗畑造成プロジェクト用に白樺など広葉樹の苗50本ほどの山引きと環境林に入った右手の葛のつる刈り、昨年植菌したホダ木の水漬け、そして山菜摘みと数班に分かれての作業となりました。

昼食は杉本シェフのこまい汁。参加者は大満足・・・何時もありがとうございます。また山菜組の皆さんからは摘みたての行者ニンニク、アズキナ(雪笹)、ヨブスマ草のおひたし(そして湯沢さんから差し入れの行者ニンニクも・・・毎回感謝・感謝)は最高でした。

待ちに待ったキノコの植菌についてその奮闘記を報告します。

この冬、澄川の森の間伐とかかり木、枯損木の整理を兼ねてキノコの原木栽培の準備のため180cmの長さ揃えたホダ木用材(ミズナラ、白樺、クリ、イタヤカエデ、ヤチダモ、シナノキ等々)の準備に掛かり、作業は降り積もった雪の中、チェーンソーでの伐木と玉切り、荷役作業と橇での藪だしは苦勞の連続でした。

今回用意したシイタケ、ナメコ、ヒラタケ、クリタケ、タモギダケの種駒にはそれぞれ適応樹種があります。シイタケ、ヒラタケにはミズナラ、ナメコには白樺、クリタケにはクリの木、タモギダケにはヤチダモが良いと言われています。それぞれ90cmに玉切りしたホダ木(直径15cm~20cm)にドリルで千鳥状に30~35個の穴を空け(穴の間隔30cm、穴の直径9mm前後、深さは空気の部屋分を含めて2.5cm)木槌でコンコン駒菌の打ち込みは息の合った連携プレーでスムーズに進行しました。太いホダ木には木口面にも駒菌を打ち込むことで害菌防止と活着促進を図ります。

それぞれ30本のホダ木に植菌し、高さ40cmほどの5種類の仮伏せ作業を終わらせ適度な散水による保湿とブルーシートによる遮光と保温(しかし25℃以下に保つことが望ましい)がうまく行かせることがよりよい活着成果を生み出し、5月末には全てのホダ木が合掌創りの本伏せ組をして二年後の収穫を待ちますが、本来の目的としてどの駒菌がどの樹種と相性が良いのか実践的に検証して行きます。



キノコ知識

雷や太鼓などの音がキノコのつぼみ（傘の開いていない状態で植物の花に相当します）を作ると云われていますがその生理的根拠は、花の蕾を生み出す物質である花芽成長ホルモンの一種で安息香酸やニコチン酸、サリチル酸が音の振動によって分泌されてキノコの蕾の部分の成長が促されるためではないかと言われています。（記、市山）

◆ 活動報告Ⅱ：4・19・08PM アイケンの森 参加者 16名

ペレット試作用ヤナギ採集

今日は東京より暑く 20 度を超えました。

アイケン工業㈱岩本社長のご好意により活動地の沢筋においてヤナギ（オノエヤナギ？後日同定）の3年生の緑の枝を採集させてもらった。今年は春が早く水を揚げ始めネコがでている。

全員が参加してナタ、腰ノコで採集し束にして、水分計がないので体重計で重量のみを測定した。軽トラックで運搬し、駐車場近くに立てて乾燥に入った。乾燥後に一次粉碎してから北見工業大学にお願いしてペレットに造粒してもらう計画です。これを機会に10月に皆で北見に行きペレットの勉強もしたい。

ペレットにはバークの入っていない白ペレットと黒ペレットがあるが、この緑色の皮が変色せずもし緑色ペレットができたならバイオマスヤナギペレットの製品差別化ができるのだが。

ヤナギのペレット化は一見通常の木質系ペレット製造と変わらなそうであるが色々クリアしなければならない問題が出そうである。絶乾比重 0.36 レベルとは言っても萌芽したばかりの枝条で嵩張る素材の輸送方法と費用問題、粉碎しても嵩張る袋詰め技術の課題、一次二次粉碎時の強靱な皮の問題、どこまで比重があがり良質な燃料になるかなど見極めなければならない。

今日の作業で分かったことはキャリコ（協会の軽トラの愛称）の積載量は 350 kg なのに嵩張って 200 kg も積めず現地粉碎が必須なことである。

見放された休耕田を使ってバイオマスヤナギを育て、炭を焼き、ペレットとする試験プロジェクトは日立環境財団の助成が決定しました。（記、酒井）

束 No.	1	2	3	4	5	6	7	計
重量	15	13	16	16	11	24	12	107kg



◆ アイケンの森 薪割り始まる（2008.4.26）

この冬から始めたアイケンの森の整備作業は、冬の間に傾斜木や込入った木を伐採・玉切りをして作業道まで運び出して置きました。

ここは傾斜地での作業であり、深い雪の中での作業でしたので中々大変な作業でした。今日は、いよいよこれらの材を薪割り場まで運び出す事になりました。作業道の雪もすっかり溶け、前回は作業道脇のササ刈りも済ませてありましたので、いよいよ軽トラック“キャリコ”の出番です。この日は、土曜日でしたが 17 名が集まりました。その他に佐野さんの知り合いの北見大学 1 年生の娘さんも参加されました。作業は、材の運び出し班と運び出した材の薪割りを行う 2 つの班に分かれて作業を進めました。



ヤ
名の
大林学1年

四輪駆動の本来の機能を取り戻した“キャリコ”は、その威力を如何なく発揮し、矢澤ドライバーの巧みなドライブテクニックにより10数回往復することにより作業道に積まれていた材を運び出す事ができました。リヤカー等での運び出しも考えていましたがやはり自動車の能力は素晴らしく改めてその力を再認識しました。また、薪割りの方も薪割り機が威力を発揮、割った薪が次々と積み上げられました。従って、この日の作業は予定以上の速さで進みました。

この日のお昼は、杉本シェフによる味噌汁(この日はアイケン社長から頂いたボリボリも入りました)や湯澤シェフによる山菜料理もテーブルに並び、またまた美味しいお昼ご飯となりました。

私達「北海道森林ボランティア協会」の活動は、地球環境にやさしい取り組みをすべく取り組んでいますが、チェーンソー、刈払い機、トラック、薪割り機などどうしても化石燃料を使う機械に頼らざるを得ない部分もあります。従って、化石燃料を使う部分を最小限にして活動を進めていく事が大事かと思えます。また、日常の生活に置いてもその心を忘れることなく生活していきたいものです。(記、荻田)



■ 今月の幹事会

出席者：荻田・酒井・佐野・杉本・高野・津金・西野・棟方・山中

1. 連絡事項

① 新会員の紹介

- ・三澤 秀樹 さん 厚別区。

4月から時間が自由になり、森と交流できる事に魅力を感じました。

- ・豊田 和規 さん 清田区。

森林関係のボランティアがしたいと思っていました。私は膝と腰に病気を持っており、はねたり走ったり重いものを持ったりできませんができる仕事で活動したい。

- ・賛助会員 アイケン工業株式会社(代表取締役社長岩本行弘)

② 平成19年度理事会(年度末)、平成19年度総会が開催され提案案件が全て承認されました。平成20年度事業計画に基づき活動を実施いたします。承認された新役員を紹介します。

新理事 ・ 斉藤克彦氏 (株オリエントルフーズ代表取締役社長)

・ 棟方鋼男氏 (現北海道森林ボランティア協会幹事)

・ 荻田雄輔氏 (現北海道森林ボランティア協会幹事)

新監事 ・ 佐坂悦子氏 (北海道森林ボランティア協会会員)

幹事役員 ・ 代表幹事 荻田雄輔氏 (前北海道森林ボランティア協会幹事)

・ 幹事 佐野礼子氏 (北海道森林ボランティア協会会員)

顧問 ・ 湊 克之 (前北海道森林ボランティア協会代表幹事)

■ おしらせ

6月・7月活動から(多数の参加を待っています。)

- ・野幌森林公園活動は6月に2回、7月に1回実施します。

- ・5月11日(日)は青山・オイスカの森植樹支援に4名参加しました。7月13日(日)には下刈りを計画しています。

- ・幌南の森では看板製作につづき、遊歩道づくりが始まります。

- ・澄川の森では昨年引続きホタル乱舞鑑賞と炭焼きを兼ね、実施します。7/31~8/1にまたがり野営して炭焼き試作を夜を徹して実施し、その間「真夏の夜のホタル鑑賞会」とします。

■活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
5月17日(土)	アイケンの森	13名	薪づくり
5月14日(水)	澄川	2名	木工(看板)
	アイケンの森	13名	薪づくり
5月12日(月)	第6期総会	42名	19年度活動報告・決算報告、ほか
5月11日(日)	青山・オイスカの森	4名	植樹
5月10日(土)	澄川	8名	木工・苗畑造成
5月9日(金)	幹事会	11名	5月定例打合せ
5月8日(木)	澄川	15名	木工・苗畑造成
5月7日(水)	澄川	9名	木工・除伐
5月6日(火)	澄川	15名	木工・植菌
5月1日(木)	りんご園	6名	草取り
4月30日(水)	りんご園	15名	伐根処理
4月29日(火)	澄川	25名	植菌
4月26日(土)	アイケンの森	17名	玉だし・薪づくり
4月24日(木)	アイケンの森	17名	除間伐・薪づくり
4月22日(火)	澄川	10名	木工・除伐
4月19日(土)	アイケンの森	17名	除間伐・薪づくり

■ひとこま

◆ 活動報告書 5月8日

苗畑造成 その3 (参加者15名)

5月6日に造成し始めた台地の上の候補地は余りにも地面が硬くて断念し、奥の小屋の前に変更した。ここも石原で表面の石ころを除去し近くの崩壊地からの客土に頼った造成となった。

その一部には前もって山引きした広葉樹のポット苗120本をポットのまま植えた。

一部の会員は看板製作、シイタケ植菌をおこなった。

活動報告5月10日 苗畑造成 その4 (参加者7名)

苗畑には製材活動で出てきて熟成させておいた木材チップ堆肥を鍬きこみ耕運機で耕した。その一部に追加の苗木を植えた。現在広葉樹13種166本となり沼からバケツで水を汲んできて灌水した。

山苗圃とたかをくくっていたが今年のように雨が少ないと高所に水タンクを設置しポンプアップするなどの恒久的な乾燥対策を次年度予算化する必要がある。チップの山を崩すとカブトムシの幼虫が続々と出てきて、この澄川環境林は豊かな山であることを実感した。

昨年、札幌市立幌南小学校が来て、隣の山で幼虫と一緒に採集し学校のビオトープで飼育しているが、今年もできそうである。本日の作業は看板製作とあわせて行った。(記、酒井)

